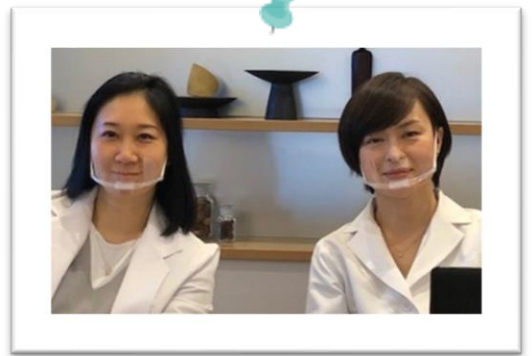


～働く女性の健康診断を考える～

乳癌の最新情報と 新しい健診施設のご案内

男女一緒に扱われがちな健康診断だが、男性と女性とではそれぞれに特有の病気があり、年代によってもかかりやすい病気が異なる。今回は、虎の門病院 プレストセンター医長・田村宜子先生に「自分にあった乳癌検査・治療の最新情報」のお話を、また新しい女性専用健診施設クアージュ東京 レディースドッククリニック総院長である浜中聡子先生からは「働く女性に必要な検査」のお話を伺い、賢い健康診断の受け方を学んだ。



2021.2.24 クアージュ東京にて



最新、乳癌の検査と治療

～“私”に合わせた検査や治療のために～

虎の門病院プレストセンター医長 田村宜子先生

女性の罹患しやすい癌を考えたとき、一番考えなければならぬのは乳癌、大腸癌、婦人科癌の3領域である。その観点から、女性に必要な健診を年齢ごとに考えていく「YOU健診」は素敵な提案だと賛同している。

「YOU」は子宮（Y）、大腸（O）、乳房（U）の部位をかたどったもので、女性の罹患・死亡率が高い疾患を総合的にチェックしフォローしていく、そして検診の内容を年齢に合わせて提案していく方法になる。すべての女性に年に1回は受診してほしい健診内容である。

つまり個人差・年齢差によって大きく異なる乳腺の濃度によって癌の発見のしやすさが異なってしまうのだ。乳腺濃度が高く乳癌を発見しづらい乳房を“デンスプレスト”と呼び、マンモグラフィ単独での検診では見落とししてしまう可能性がある。真っ青に晴れ渡った空では白い三日月を見つけやすいが、秋の曇雲が散らばる白っぽい空では、白い三日月を見つけにくい。秋の空と同じように乳腺濃度の高い乳房であれば、白く映る乳癌を発見しづらく、検査方法を検討する必要があるということなのだ。

◆乳癌検診の質を考える

乳癌は現在女性の9人に1人が罹患するといわれていて、30代後半から増え、40代と60代にピークがある。しかし80代であっても乳癌に罹患する可能性があるし、若年性の乳癌も一定数ある。増加の一途をたどる乳癌だが、抗癌剤や内分泌療法、放射線治療なども標準的に行われるようになり、患者さんの生存率が上がっている。Ⅱ期、Ⅲ期の生存率は10年あまりで10%近く上がり、ステージⅣの5年生存率も上昇した。罹患後の人生をどのように歩むのかということは、治療選択の上で大切な事柄になっている。

自治体が行う癌検診は、国民の死亡率を減少させる目的で行われている。その観点から、自治体の乳癌検診は40歳以上の女性に2年に1度のマンモグラフィ検診が推奨されている。しかし、検診は死亡率の低下だけを捉えていればよいのだろうか。0期で発見されたら、手術で完治し、その生存率は98%である。早期に発見できるよう、検診で受ける検査内容を検討し、画像を比較し検討できるようにする。つまり検診の質を担保することで乳癌を罹患しても、その後の生活やその先の人生が変わるのである。早期発見・早期治療につながる検診を考えておくことは、誰にとっても重要ではないだろうか。

◆HBOC（遺伝性乳癌卵巣癌症候群）について

2020年、乳癌や卵巣癌になりやすい遺伝子（BRCA）検査が保険適用になり、遺伝子検査で陽性と判明した場合は、発癌予防のための手術またはMRIなどを用いた高精細な検診について保険診療が認められる。癌になりやすい方々があらかじめ情報を持つ時代がきた。遺伝子検査から乳癌になりやすいことが分かっている方だけでなく、家族歴はあるが遺伝子検査まではしていない方、あるいは先ほどのデンスプレストといわれている方たちに対してどのような検診を行っていくことが良いのか検討されている。しかし多くは医学的な根拠はまだ確立していないのが現状であり、現段階としては、年齢だけでなく、少なくともデンシティや家族歴などから、ひとりひとりにとって適している乳癌検診を検討していくことが重要なのは確かである。

大事なのは自分に適している検診がどのようなものかを知ること。同一施設で継続すると画像の比較ができるために、早期に病気を発見できる可能性があることを知ること。そしてマンモグラフィ単独よりは超音波検査や3Dマンモグラフィを追加することでメリットを知ること。賢く検診を受けるには、自分の状況を良く知っている施設で質の良い検診を続けていくこと、それが乳癌対策の1番の近道だと考えられる。

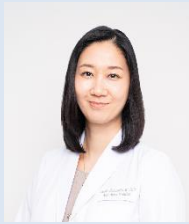
◆乳癌検診で知っておくべき「デンスプレスト」

乳癌はマンモグラフィ単独の検診において死亡率を低下させるデータがある。しかし課題もある。それがデンスプレストの問題だ。マンモグラフィでは、乳腺組織や癌は白く、脂肪組織は黒く映り、乳房の中の乳腺組織（白）と脂肪組織（黒）の割合は、個人差が大きく、年齢を重ねることで変わっていく。

【画像】
田村先生
ご講演資料より



●デンシティが低い脂肪性の乳房では、乳癌を発見しやすいが、高濃度乳房（デンスプレスト）では乳癌を発見しづらい。



「新しい女性専用健診施設のご紹介」 ～働く女性に必要な医療を届ける～

クレアージュ東京

レディースドッククリニック総院長 浜中聡子先生

◆男女同じ健診内容でよいのか

現在、健診センターや人間ドックはほとんどが男女混合で受診しており、完全に女性専用の健診施設は、全国でもほとんどない。しかし、女性と男性とでは、そもそも疾患の発症率も経過も異なる。一律に同じ健診内容でよいのだろうか。

女性の癌の罹患数予測では、1位が乳癌、2位が大腸癌、3位が肺癌である。一方男性は、前立腺癌が1位、2位が胃癌、3位大腸癌と続く。どの癌に焦点をあてて検診を受診すればよいのかは、男女によって異なる。また、意外と知られていないが、癌にかかる率は実は50代前半までは、男性より女性の方が高い。働き盛りに多い乳癌も子宮頸癌も、早期に発見し早期に治療すれば治せる可能性は非常に高く、身体的・経済的負担も軽くすむ。み、早期の社会復帰が可能になる。そのためにもクオリティの高い検査を受けていただきたい。女性にとってより詳しい内容かつ、精度の高い検査を受けていただきたい。

◆必要な女性健診を一緒に受けられる施設が少ない

働く女性の6割は働き続けたいと考えている調査結果がある。その一方で、働く女性の8割は月経随伴症やPMSなどの症状や疾患を抱えているといわれる。とはいえ、実際に生理休暇をとる人はほとんどいない。多くの女性は、鎮痛薬を飲み、我慢をして仕事を頑張っている状況である。

今、働く世代の女性健診に必要なのは、検査を包括的に実施することが可能な施設なのではないだろうか。このような背景から、約3000人の女性と各専門医の意見を集約した女性専用のドッククリニックを開院した。スタッフも医師もすべて女性なので、よけいな視線を気にすることなく受診していただける。

◆働く女性の体の不安と一緒に向き合う

日本は世界一の長寿国である。しかし寿命の長さよりも、やはり健康寿命を延ばしたい、人生のクオリティは落とさたくない誰もが願う。そのサポートのベースとなるのが健診である。

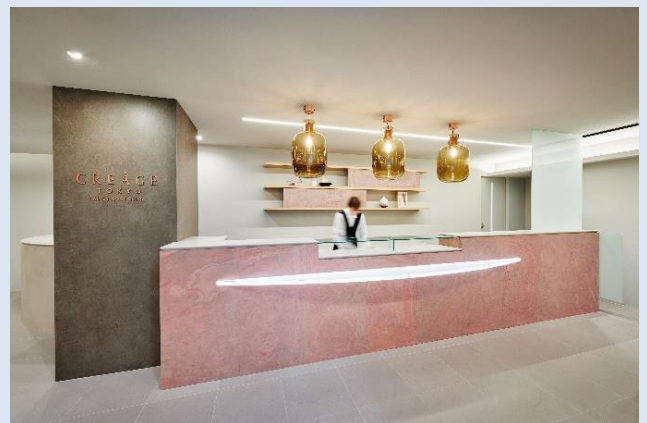
健診によって自分の体の状態を知り、自己管理をしていくことが重要だ。だから私たちは、女性が抱えるどんな不安も無視しない。自分らしく健やかに美しく年齢を重ねていくための体のライフプランニングを一緒に考えていきたいと考える。クレアージュ東京には、女性のため人間ドックであるレディースドッククリニックと、エイジングケアクリニックがある。エイジングケアクリニックは、女性の髪・肌・ホルモンバランスのクリニックで、更年期の治療や心理的なフォローもしていく。

◆クオリティを重視して作った女性専用の健診施設

クレアージュ東京 レディースドッククリニックの大きな特徴は、子宮、卵巣、乳房、大腸など女性に必要な検査が充実していることである。例えば子宮・卵巣の検査であれば、企業補助の対象外となっているHPV検査や経膈超音波検査も行なっている。

その他、当レディースドッククリニックの特徴を下記にまとめた。感染症対策も徹底させているので、安心して健診をお受けいただきたい。

コンセプトと特徴			
大都市で働く女性のために、 からだの不安と一緒に向き合う人間ドック			
女性専用 医師スタッフも 女性のみ	女性に必要な 検査が充実 子宮・卵巣 乳房 大腸	3Dマンモグラフィ 対応 デンスプレストの方 家族歴のある方におススメ	内視鏡設備が充実 経膈・経直腸が通れる 結腸の検査も専用の専用 スコープなので痛みにくい 大腸や痔瘻の検査は非侵襲 専用レトリリカバリエーションあり
画像検査の Wチェック (二重造影実施) 胸部X線、腹部X線、 マンモグラフィ、 経膈・経直腸エコー	デンスプレストを 個別でお知らせ 乳癌といるため、 次回は乳癌エコー検査との 併用を推奨しています。	アフターフォロー 充実 内科・婦人科・乳腺外来 併設	結果最短3週間 マイページから いつでも見られる



【クレアージュ東京 レディースドッククリニック】

所在地:〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1

有楽町電気ビル北館17階

アクセス:有楽町駅徒歩1分 地下鉄日比谷駅直結

電話番号:0120-815-835 (9:00~16:00)

ホームページ: <https://www.creage.or.jp/ladies/>